

# 教育実践総合センター平成 30 年度活動概要

## 1. 構成員

センター長（併任）

教授 栗原 慎二

センター担当教員

《学校教育相談実践部門》

教授 栗原 慎二（併任）

教授 深谷 達史（併任）

《教育実践研究開発部門》

准教授（実務家教員） 西本 正頼（併任）

准教授（実務家教員） 亀岡 圭太（併任）

事務補佐員

竹ノ中亜由美

非常勤相談員

教育臨床相談 エリクソン ユキコ、山崎 茜

センターの概要

二つの部門を設置し、学校や教育委員会等の教育・行政機関や地域と連携を図りながら次のような活動を行っている。

教育実践研究開発部門では、高い専門性と優れた指導力を持つ教員を養成するための教育事業や研究・カリキュラム開発を行うとともに、学校の実践研究に対するコンサルテーションも行っている。学校教育相談実践部門では、現在の学校教育が抱える問題を解決・予防するための研究や、相談・支援活動を行っている。平成 18 年度から学校心理教育相談室（にこにこルーム）を設置し、学習や生徒指導・研究相談にかかわる心理教育的支援、学校心理学に関する教育・研究を行うとともに、学校心理学に関する研修の機会を提供している。

## 2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

### (1) 子どもの心と学び支援セミナー

#### ① 「多様な現場の実践に学ぶ」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 30 年 5 月 12 日（土）

場所：比治山大学 6 号館

講師：升田智子（浅田病院）

斎藤弘樹（広島県教育委員会

豊かな心育成課）

坂谷佳祐（広島学園）

参加人数：35 人

#### ② 「学習につまづきのある子どもの理解と学習支援の実践」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 30 年 6 月 16 日（土）

場所：中特会館（広島市中区鞆町）

講師：岡直樹（徳島文理大学教授・

広島大学名誉教授）

参加人数：20 人

#### ③ 「一歩先を行く UDL」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 30 年 7 月 7 日（土）

場所：公益社団法人学校教育開発研究所

講師：バーンズ 亀山 静子（ニューヨーク市

公認スクールサイコロジスト）

参加人数：7 人

#### ④ 「カウンセリングの達人になる！&事例検討」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 30 年 9 月 24 日（日・祝）

場所：合人社ウエンディひと・まちプラザ

講師：神垣幸一（広島市立中学主幹教諭）

谷田寿幸（広島市中等教育学校教頭）

エリクソンユキコ（広島大学）

栗原慎二（広島大学）

参加人数：25 人

#### ⑤ 「日本学校教育相談学会・中四国ブロック研修会および広島子どものこころ支援ネットワーク定例会『子どもの貧困と虐待を考える』」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生他

期日：平成 30 年 11 月 24 日（土）

場所：比治山大学 6 号館

講師：広島県母子生活支援施設職員

安芸戦士メープルカイザー

中林浩子（新潟市白南中学校校長）

栗原慎二（広島大学）

参加人数：35 人

#### ⑥ 『『チーム学校』の実現のための不登校支援

の実際」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 31 年 1 月 26 日（土）

場所：中特会館（広島市中区鞆町）

講師：米田成（大阪市立中学校教諭）

井上予志栄（廿日市市スクール

ソーシャルワーカー）

栗原裕香（放課後等デイサービス

ふらっぷ高陽）

参加人数：50 人

#### ⑦ 「PBIS（ポジティブ行動支援）」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：平成 31 年 3 月 30 日（土）

場所：比治山大学

講師：村山俊（総社市教育委員会指導主事）

兼丸千聖（広島大学教育学部 4 年）

栗原慎二（広島大学）

参加人数：39 人

### 3. 研究活動状況

#### (1) センタープロジェクト研究

① 科学研究費助成事業基盤研究（C）（特設分野研究）「反いじめ・平和構築のための教育プログラムの開発」平成 29 年度～平成 31 年度

② 岡山県総社市との協力に基づく共同研究「マルチレベルアプローチによる生徒指導改革の研究①」

③ 宮城県石巻市との協力に基づく共同研究「マルチレベルアプローチによる生徒指導改革の研究②」

④ 兵庫県加古川市との協力に基づく共同研究「マルチレベルアプローチによる生徒指導改革の研究③」

⑤ 平成 30 年度教育学研究科共同研究プロジェクト「学習スキルと社会情動的スキルを高める介入法の開発と評価：児童生徒と学生を対象として」

### 4. 教育・社会貢献事業

#### (1) にこにこルーム（学校心理教育支援室）

《学習相談》

にこにこルームの学習相談に参加した学生は 40 名。

① 前期（2018 年 5 月 10 日から 2018 年 8 月 1 日）

東広島市内の小学校 14 校から 4 年生以上の児童 10 名を対象に，5 月 10 日から 8 月 1 日までの計 10 回，毎週水曜日 17 時 30 分から 19 時 20 分までの 110 分，認知カウンセリングとレクリエーションのセッション（もしくは，18 時 30 分から 19 時 30 分までの 60 分間の認知カウンセリング）を行った。終了後，毎回ケース検討会を行った。

② 後期（2018 年 11 月 14 日から 2019 年 2 月 6 日）

前期に抽選で漏れた児童ないし前期から継続して参加した児童 10 名を対象に，11 月 14 日から 2 月 6 日までの計 10 回，毎週水曜日 17 時 30 分から 19 時 20 分までの 110 分，認知カウンセリングとレクリエーションのセッション（もしくは，18 時 30 分から 19 時 30 分までの 60 分間の認知カウンセリング）を行った。

③ その他の活動

上記以外に，にこにこルーム個別学習相談窓口にて受け付けた 2 件に対して，個別に学習相談を行った。（小学生 1 名，中学生 1 名）

#### 《学校臨床相談》

一年間を通じて臨床心理士と大学院生の学生支援員による学校臨床相談活動を実施した。1 回の面接は 50 分で，原則 10 回～15 回を上限とした回数限定でカウンセリングやソーシャル・スキル・トレーニング（以下 SST）等を行った。学生支援員が担当するケースの判別は臨床心理士が行い，インテーク面接の実施後，学生が児童生徒の面接を担当した。

① にこにこ広島ルーム臨床相談（毎週土曜日）

広島大学東千田キャンパス内の相談室において，毎週土曜日（10 時～17 時 30 分）に完全予約制で相談活動を行った。来談件数は 15 件で，延べ相談件数は 41 回。来談のケースは小学校 1 年生～中学 3 年生。不登校及び不登校傾向，発達障害，進路への不安，子育て不安などに関する相談等が中心であった。また，現職教員へのコンサルテーションも実施した。

② にこにこ東広島ルーム臨床相談（毎週日曜日）

東広島ルームの支援員は 2 名で有資格者カウンセラー 2 名によりカウンセリングとスーパービジョンを行った。

広島大学キャンパス内の相談室において，毎週日曜日（10 時～17 時 30 分）に完全予約制で相談活動を行った。開室日数は 36 日，来談件

数は11件で、延べ相談件数は84回。来談のケースは小学校1年生～中学校3年生。不登校及び不登校傾向、発達障害、子育て不安、その他精神症状に関する相談であった。

③ 定期ケース検討会（木曜日 18時～20時 30分）

前期・後期共に定期ケース検討会を実施した。参加学生は事前登録した37名で、臨床心理士・学校心理士及び学生支援員の担当するケースの事例検討会を行った。また、学級経営、児童・生徒のアセスメント、カウンセリング基本技法、SST技法等の勉強会を実施した。（延べ24回）

④ ボランティア実習

広島市内の母子自立支援施設、情緒障害児短期治療施設、広島市生活困窮世帯学習支援事業等においてボランティア実習（最低5回以上）を実施。学生は実習後に毎回レポートを提出し、教員によるフィードバックを行った。

⑤ 集団ソーシャル・スキル・トレーニング&学習カウンセリング実習

地域の児童・生徒を対象に2018年10月25日から2019年1月24日まで計5回、集団SSTと認知カウンセリングを行った。参加者は対人関係の苦手な子どもや発達障害の傾向のある児童・生徒で小学校高学年グループ（4・5年生10名）と中学生グループ（1・2年生4名）に分かれ、集団でのSSTと個別での学習カウ

リングを学生支援員が担当し教員の指導のもと実施した。

(2) 学校コンサルテーション活動

概要：学校での生徒指導・教育相談に関するコンサルテーション

時期：通年（54回）

対象：教員および保護者等

人数：延べ約220名

(3) フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員17名及び下見地区の地域の方等の学外委員10名から成るフレンドシップ事業運営委員会を組織している。「地域教育実践Ⅰ・Ⅱ」の授業として通年で開講した。2018年6月から12月の間、6回の活動を13時から17時(最終日のみ11時から17時)の時間帯で行った。計41名の学生が参加し、活動した。また、東広島市立小学校から募集した72名の児童が参加した。「パズル」、「くらし」の2グループに分かれ、それぞれ児童8～9名と学生4名で1班とし、8班を編成で、グループ活動や畑での栽培活動などを行った。

5. 研究紀要の刊行

・学校教育実践学研究（第25巻）の刊行